



<育成を目指す資質・能力>

※別紙「情報活用能力育成のための年間指導計画」に記載

<関連する各教科等の力>

<p>【国語科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文章などの情報の意味を正確に理解することができる。 ○観察やインタビューなどの一次情報を集めて話し合う。 ○本やインターネットなどの二次情報を集めて話し合う。 ○出典や引用の適切な方法を知ることができる。 ○情報を整理・分析しながら話し合い、考えを深めることができる。 ○相手と目的を考え、根拠を示しながら議論や説明をすることができる。 ○言葉、図表、写真などを用いて効果的に表現することができる。 ○キーボードによる日本語入力の技能を高めることができる。 	<p>【音楽科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌唱や演奏等を映像等で確認し、課題を明確に把握することができる。 ○教材や作曲家、作詞者などの情報をインターネット等で調べることができる。 ○音楽ソフトなどを活用して簡単な音楽づくりを楽しむことができる。
<p>【社会科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料や専門家、インターネットなどから学習に関する情報を収集することができる。 ○Web ページやメールによる情報発信の方法を学ぶことができる。 ○インターネットの Web 検索で情報を集めることができる。 ○地域の人々に手紙で聞いたりインターネットで調べたりすることができる。 ○県内の特色ある地域に関してインターネットで資料を収集することができる。 ○情報化が社会にもたらす大きな影響について理解することができる。 ○情報産業に従事している人や情報産業の役割を理解することができる。 ○身の回りや産業の分野にも情報化が進んでいることを理解することができる。 	<p>【図画工作科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りのものを撮影したり、加工したりして作品を制作することができる。 ○作品などを拡大して提示し、感じたことや思ったことを話し合うことができる。 ○インターネット上の画像を検索し、好きな美術作品などを紹介することができる。 ○自分の作品を撮影してデジタルポートフォリオをつくることができる。 ○プログラミングによってアニメーションや映像などを制作することができる。
<p>【算数科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○収集したデータを表を用いて整理し、正確に分類することができる。 ○データを目的に応じてグラフ化し、どのグラフが適切か検討することができる。 ○身の回りの数に関わる映像を撮影し話し合うことができる。 	<p>【家庭科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○衣食住に関する情報を収集することができる。 ○購入する物の情報を収集することができる。
<p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テレビや新聞、インターネットを活用して自然などの変化を調べることができる。 ○観察記録や実験データを表やグラフにまとめデータの整理をすることができる。 ○インターネット上のコンテンツを活用して情報を得ることができる。 	<p>【体育科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分や他者の動きを映像等で確認し、課題を把握したり、課題解決の方法を選んだり考えたりすることができる。 ○練習方法や場・用具・ルール等の工夫について、インターネット等で調べることができる。
<p>【生活科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校にはどのような場所があるのか探検することができる。 ○自分たちの通学路の安全について調べることができる。 ○自分たちの町にはどのような施設や人がいるのか探検することができる。 ○学習したことや成長したことを保護者や異学年の人と交流することができる。 	<p>【外国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ネットワークや教育機器などを活用し外国語に慣れ親しむことができる。 ○インターネットの情報を収集したり海外の人と交流したりすることができる。 ○外国語を使った動画やリーフレットなどをつくり交流することができる。
	<p>【道徳科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文字によるやりとりは誤解を生む危険があることに気づくことができる。 ○匿名性を悪用して軽い気持ちで書き込むことの重大さに気づくことができる。 ○相手の顔が見えないメールでのコミュニケーションの特性を知ることができる。 ○個人情報保護することの大切さに気づくことができる。 ○知的財産権を尊重することの大切さに気づくことができる。

<関係機関等との連携>

- ・ ICT 支援員
- ・ 地元企業・大学等
- ・ NPO 法人 学習ボランティア